

## 1. 現行学習指導要領の成果と課題

- 芸術系教科・科目（音楽科、図画工作科、美術科、芸術科）においては、以下のとおり、これまでの成果と課題を整理した。
- 音楽科、芸術科（音楽）においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。
- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められるところである。
- 芸術科（書道）においては、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質・能力の育成等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関連を図りながら能動的に学習を深めていくことや、書への永続的な愛好心を育むこと等については、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。

## 2. 育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

### （1）教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 各教科等を学ぶ意義は、各教科等において身に付ける資質・能力の三つの柱で整理される。これらの資質・能力の中核となるのが、各教科等の本質に根ざした「見方・考え方」である。総則・評価特別部会<sup>1</sup>において、「見方・考え方」とは、「様々な事象を捉える教科等ならではの視点」と「教科等ならではの思考の枠組み」であると議論されている。芸術系教科・科目においては、様々な対象や事象を「教科等ならではの視点」と「教科等ならではの思考の枠組み」は、相互に関連し合い一体のものとして育まれる。
- 各教科等の特質に応じ育まれる多様な「見方・考え方」を統合的に働かせるようになることにより、社会や世界を多面的・多角的に捉えたり考えたりすることができるようになる。
- 本ワーキンググループにおいては、芸術系教科・科目の特質に応じ育まれる「見方・考え方」を以下のとおり整理した。芸術系教科・科目では、「見方・考え方」を働かせながら知識・技能を習得したり、「見方・考え方」が成長することにより思考力・判断力・表現力等が深まり豊かなものとなったりすると同時に、「見方・考え方」を通じて社会や世界とどのように関わるかという点が学びに向かう力や人間性の育成に大きく作用することとなる。

#### 【小学校音楽科】

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

#### 【中学校音楽科】

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

#### 【高等学校芸術科（音楽）】

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

#### 【小学校図画工作科】

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと。

#### 【中学校美術科】

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

---

<sup>1</sup> 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下に、芸術ワーキンググループとともに設置されている。

### 【高等学校芸術科（美術）】

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくりだすこと。

### 【高等学校芸術科（工芸）】

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくりだすこと。

### 【高等学校芸術科（書道）】

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

- これらの教科・科目の「見方・考え方」は、現行の学習指導要領において、小学校音楽科、小学校図画工作科、中学校音楽科、中学校美術科で示されている表現及び鑑賞に共通して働く資質・能力である〔共通事項〕とも深い関わりがある。今後、その関連について検討していくことが求められる。
- こうした芸術系教科・科目の「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることである。知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科等以上に芸術系教科・科目が担っている学びである。また、個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくこと、自分の感情のメタ認知なども含まれており、そこにも、芸術系教科・科目を学ぶ意義や必要性がある。
- また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではない。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きである。また、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものである。このため、子供たちの創造性を育む上でも、感性を働かせ育む芸術系教科・科目がこのことを担っていると考える。

## （2）小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

- 本ワーキンググループにおいては、学校段階ごとに育成を目指す資質・能力について、以下のとおり整理した（資料1）。学校段階ごとの音楽科、図画工作科、美術科、芸術科（音楽、美術、工芸、書道）の教科の目標についても、このような資質・能力の整理に基づき、今後、検討していくことが求められる。

## 【音楽科、芸術科（音楽）】

### （小学校音楽科）

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を工夫したり、楽曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴いたりする力を育てる。
- ③ 音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、豊かな情操を養う。

### （中学校音楽科）

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かして音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに価値判断しながらよさや美しさを味わって聴いたりする力を育てる。
- ③ 音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を養う。

### （高等学校芸術科（音楽Ⅰ））

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を創意工夫したり、音楽を価値判断しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりする力を育てる。

- ③ 音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、生涯にわたり音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、芸術としての音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度を養う。

## 【図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）】

### （小学校図画工作科）

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する創造的な技能を身に付けるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深め、味わう力を育てる。
- ③ つくりだす喜びを味わうとともに、感性をはぐくみ、楽しく豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

### （中学校美術科）

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりする力を育てる。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

### （高等学校芸術科（美術Ⅰ））

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。

- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての美術の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。

#### (高等学校芸術科 (工芸 I) )

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての工芸の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり工芸を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

#### 【芸術科 (書道)】

#### (高等学校芸術科 (書道 I) )

- ◎ 書に関する見方・考え方を働かせて、書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現を工夫して表すための効果的な技能を身に付けるようにする。
- ② 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする力を育てる。
- ③ 書の創造的活動の喜びを味わい、生涯にわたり書を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、芸術としての書を通して生活を心豊かにする態度を養う。

- 今回の学習指導要領の改訂に際しては、幼児教育において育成される資質・能力との関連について十分に意識するとともに、これらの基礎の上に立って、小・中・高等学校それぞれの学校段階において、音楽科、図画工作科、美術科、芸術科（音楽、美術、工芸、書道）でどのように資質・能力を身に付けさせるのかを明確にしていくことが必要である。
- その際、小学校図画工作科の工作に表す活動において育成する資質・能力は、中学校技術・家庭科（技術分野）において育成する材料、加工に関する技術についての基礎的・基本的な知識・技能ともつながるものである。
- 高等学校芸術科（書道）において育成する資質・能力は、小学校及び中学校の国語科（書写）において育成する、文字を正しく整えて（速く）書くこと、書写能力を学習活動や日常生活（社会生活）に生かすとともに、文字文化（手書きの意義や文字の由来など）について理解することといった資質・能力ともつながるものと考えられる。また、高等学校においては、資質・能力の育成にあたり、国語科の共通必修科目において育成する、書写能力を実社会・実生活に生かすことや、古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めることといった資質・能力との関連を図ることが考えられる。
- また、高等学校芸術科は、芸術への永続的な愛好心を育み、感性を高め、豊かな情操を養う教科であり、一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要である。したがって、今後も現行と同様に、音楽、美術、工芸、書道の選択制のもと、人間の精神の働きによって作りだされた有形・無形の成果の総体と言える芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、学校を卒業した後も、生涯にわたり我が国及び諸外国の芸術文化を尊重する態度の育成を重視していくことが大切である。
- また、これらの資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った整理について検討した。資質・能力の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要であると考えられる。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。「知識・技能」を育成するためには、同時に「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」の育成が必要であり、「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」が高まることによって、「知識・技能」が高まることにもつながる。「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」の育成においても、その他の二つの柱との関係は同様であると考えられる。
- 特に、「知識」については、本ワーキンググループでは、以下のとおり整理した。芸術系教科・科目における「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。知識が、体を動かす活動なども含むような学習過程を通

じて、個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念<sup>2</sup>として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通じて更新されていくことが重要である。（なお、ここで言う概念の習得が一般概念の習得にとどまるものではないことに留意する必要がある。）

- このことを踏まえて、「知識」に関しては以下のことが重要であり、発達の段階に応じて整理していく必要があると考えられる。
  - ・〔共通事項〕を学習の支えとして、諸要素（音楽を形づくっている要素、形や色、書を構成する要素など）の働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること
  - ・芸術に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解すること
- これらの「知識」の内容は、「思考力・判断力・表現力等」を育成する過程で育まれたり、思考・判断・表現する際に活用されたりすることが重要であるが、「知識」においてはその内容の理解の質に主眼があり、「思考力・判断力・表現力等」においては、それらを活用した表現意図や構想、鑑賞の質に主眼がある。
- なお、小学校段階における諸要素とその働きの理解については、気付いたり、分かたりできることを大切にするなど、各学年の発達の段階に応じた指導の工夫が必要であると考えられる。
- また、「技能」についても、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが重要である。
- 以上のような「知識・技能」の整理とともに、芸術系各教科・科目における「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」についても三つの柱に沿った整理を行い、小・中・高等学校を通じた、芸術系各教科・科目において育成を目指す資質・能力の整理として資料2のとおり取りまとめた。

#### 【音楽科、芸術科（音楽）】

- 「知識・技能」における「知識」では、「曲想との関わり」、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについては「音楽における働き」などを明記し、一人一人が感性を働かせて感じ取ることと関連させた理解とすることとして整理した。また「技能」では、思いや意図などを音楽で表現するための技能であることを明記し、「思考力・判断力・表現力等」と関連させた技能とすることとして整理した。

---

<sup>2</sup> 子供たちが学ぶ過程の中で、新しい知識が、既に持っている知識や経験と結び付けられることにより、各教科等における学習内容の本質的な理解に関わる主要な概念として習得され、そうした概念がさらに、社会生活において活用されるものとなることが重要である。



- 「思考力・判断力・表現力等」では、音楽を形づくっている要素の聴き取り／知覚・感じ取り／感受することを支えとした上で、表現領域と鑑賞領域それぞれにおける資質・能力を明確にすることとして整理した。
- 「学びに向かう力・人間性等」では、感性、情操について位置付けるとともに、協働して音楽活動をする喜び、生活や社会との関わりなどについて明記し、他者とともに音楽表現や音楽の意味や価値を創造し、音楽文化を尊重するとともに音楽文化を継承、発展、創造する態度の育成に向かうものとして整理した。
- 高等学校芸術科（音楽）においては、表現及び鑑賞の活動に共通の支えとなる指導内容を「音楽的な見方・考え方」と関連させて整理した。

#### 【図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）】

- 「知識・技能」における「知識」では、各学校段階における「見方・考え方」との関連も踏まえ、形や色などの特徴、美術作品や文化遺産についてなどを位置付け、それらを整理した。「技能」については、発想や構想したことなどを基に材料や用具を使い工夫したり、表現方法をつくりだしたりすることや、体全体を働かせたり、材料や用具の経験や技能を総合的に生かしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する創造的な技能であることとして整理した。
- 「思考力・判断力・表現力等」には、各学校段階における表現に学習において育成する「発想や構想の能力」及び鑑賞の学習において育成する「鑑賞の能力」を位置付け、表現と鑑賞の学習において育成する創造的な思考力・判断力・表現力等であることとして整理した。
- 「学びに向かう力・人間性等」には、各学校段階の連続性に配慮し、感性、つくりだす喜びや創造活動の喜び、主体的に学習に取り組む態度、美術文化の継承と発展への態度、情操などを位置付け、心豊かに生きることと造形や美術などに関わりとして整理した。
- 高等学校芸術科（美術、工芸）においては、表現及び鑑賞の活動に共通の支えとなる指導内容を「造形的な見方・考え方」と関連させて整理した。

#### 【芸術科（書道）】

- 「知識・技能」では、書の表現方法、形式、書表現の多様性や書の伝統と文化などについて、表現を構想し工夫したり、作品を創造的に深く捉えたりすることを通して理解することを「知識」として整理した。これらは、事実に基づく知識のみにとどまらず、書を構成する要素とその表現効果の視点から、自覚的に理解され、表現や鑑賞に活用できるようにするよう留意する必要がある。また、意図に基づいて表現を構想し工夫する中で、用具・用

材の特徴を理解しながら、書の伝統に基づく効果的な技能を身に付けることを「技能」として整理した。

- 「思考力・判断力・表現力等」では、書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きの視点から捉えることを支えとして、思いや意図に基づいて構想し表現を工夫していくこと（表現領域）、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えること（鑑賞領域）として整理した。
- 「学びに向かう力・人間性等」では、感性、情操、書の創造的活動の喜び、芸術としての書の創造的活動に主体的に取り組む態度、書の伝統と文化を尊重する態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを位置付けるとともに、文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度を明記するなどして整理した。
- 高等学校芸術科（書道）においては、表現及び鑑賞の活動に共通の支えとなる指導内容を「書に関する見方・考え方」と関連させて整理した。

### （3）資質・能力を育む学習過程の在り方

- 前述（2）に掲げた資質・能力を育成していくためには、学習過程の果たす役割がきわめて重要である。芸術系教科・科目においては、資料3のとおり図示し、三つの柱で整理した資質・能力がどのように働いているか、明確化を検討した。

#### **【音楽科、芸術科（音楽）】**

- 音楽科、芸術科（音楽）においては、音や音楽との出会いを大切にし、音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り／知覚し、感じ取って／感受して、音楽的な特徴と、音楽によって喚起される自己のイメージや感情、音楽の背景などと関連付けることを、表現及び鑑賞の学習において共通に位置付けた。このことを支えとして、表現領域の学習では、音楽表現について創意工夫し、音楽表現に対する思いや意図を持ち、音楽で表現できるようにする過程を示した。また、鑑賞領域の学習では、音楽のよさや美しさなどについて自分なりの考えを持ち、味わって聴くことができるようにする過程を示した。こうした学習過程を通して、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚できるようにし、このことによって、音楽文化についての理解を一層深めることにつなげられるようにすることが重要である。

・こうした学習過程の中で、音楽を形づくっている要素の聴き取り／知覚・感じ取り／感受を支えとして、音楽に関する用語や記号、楽曲の文化的・歴史的背景などの知識を得たり、音楽的な特徴や楽曲の構造、要素の働きが生み出す雰囲気や曲想の変化などを捉えたりして、それらを関連付けたり組み合わせたりしながら理解できるようにする。また、理解したことを活用して、音楽表現に対する思いや意図、音楽のよさや美しさなどについて自分の考えを持つことができるようにする。

- ・こうした学習過程の中で、聴き取り／知覚、感じ取った／感受したことを、言葉や体の動きなどで表したり、比較したり関連付けたりするなどしながら、音楽との一体感を味わったり、音楽を形づくっている要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりできるようにする。
  - ・表現領域の学習は、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしながら行われる。そのため、こうした学習過程の中で、音楽表現を創意工夫するために必要な技能を身に付けながら様々に試行錯誤して音楽表現に対する思いや意図を持ったり、思いや意図を音楽で表すために必要な技能を児童生徒が必要感を持って身に付けたりできるようにする。
  - ・鑑賞領域の学習では、自分が見いだした音楽の面白さ、よさや美しさなどについて、言葉で説明したり批評したりしながら、他者と互いの考えを交流したり、自分の考えを明確にしたりできるようにする。
  - ・こうした学習過程は、音楽に対する感性に支えられている。一方、学習過程のある場面では、例えば、新たな用語や記号に関する知識や楽曲の背景に関する知識、楽器の奏法に関する技能などについて、音楽に対する感性が働いていない状態で得ることができる部分もある。このような状態で得た知識や技能を、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすることに生きて働くものとするために、音楽活動を通して、音楽に対する感性を働かせて、実感を伴って理解したり身に付けたりできるようにする。また、このことによって、音楽に対する感性は一層豊かに育まれる。感性を育むことは、我が国の音楽文化に愛着を持つとともに他国の音楽文化を尊重する態度の育成に、また音楽文化を継承、発展、創造することや異文化を理解し多様な人々と協働することにもつながる。
  - ・こうした学習過程の積み重ねによって、音楽に対する感性が育まれ、豊かになり、高まり、磨かれ、豊かな情操が養われるようにする。
- なお、これらの学習過程における学習活動は、一方向の流れではなく、必要に応じて戻ったり繰り返したりすることが大切であること、また、題材の扱い時間によっては、一単位時間の中で全ての学習過程を実施するのではなく、その一部のみを実施する場合があることに留意する必要がある。
  - このような学習活動を通じ、それぞれの過程において、資料2に掲げてあるような資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。
  - 小学校及び中学校においては、それぞれの発達の段階に応じて、過程の一部を統合的に取り扱うことはあり得るものの、基本的には資料3と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

## 【図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）】

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、感性や想像力等を働かせて、形や色などの特徴やイメージなどと幅広く関わり、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら学習することができるように、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力を位置付けた。
  - ・ こうした学習過程の中で、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力が主体的に学ぶ意欲や感性などと往還して、形や色などの特徴やイメージなどと関わることを重視した。表現の学習において発想や構想することや創造的な技能を働かせること、鑑賞の学習において作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことなどが、それぞれの学習過程の中で、知識を得たり結び付けたり活用したりしながら、相互に関連して働くようにすることにより、資質・能力を効果的に育成することが重要である。
  - ・ 思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、形や色、材料の感じ、感情効果やイメージなどを捉えながら、アイデアスケッチなどに感じたことや考えなどを整理して発想や構想を練ることや、話し合ったり、自分の価値意識を持って批評し合ったりするなどして見方や感じ方を深めるなどの言語活動を位置付けた。こうした学習活動の中で、発想や構想する場面や作品などのよさや美しさを感じ取る場面において、他者への働きかけや他者からの働きかけなどの協働的な学びを通して、創造的な思考力・判断力・表現力等を育成する。
  - ・ 相互に関連して働く学習過程全体と関わる形として、主体的に学ぶ意欲をはじめ、それぞれの学校段階の創造活動において、対象を捉えたり判断やイメージをしたりするときの基になるものである感性を位置付けた。また、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心である情操をこれまでどおり位置付け、形や色、イメージなどの視点を持ち、生活や社会と豊かに関わる資質・能力を育成する。
- なお、これらの学習過程における学習活動は、一方向の流れではなく、必要に応じて戻ったり繰り返したりすることが大切であること、また、題材の扱い時間によっては、一単位時間の中で全ての学習過程を実施するのではなく、その一部のみを実施する場合があることに留意する必要がある。
- このような学習活動を通じ、それぞれの過程において、資料2に掲げてあるような資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。
- 小学校及び中学校においては、それぞれの発達の段階に応じて、過程の一部を統合的に取り扱うことはあり得るものの、基本的には資料3と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

## 【芸術科（書道）】

- 芸術科（書道）においては、書表現のよさや美しさを感じること、書と豊かに関わることから書の創造的活動が展開する。育成する資質・能力と学習内容との関係を一層明確にしていく観点から、表現及び鑑賞の活動に共通に働く内容を、書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きを捉えることとして位置付けた。これは、「書に関する見方・考え方」と深く関係している。これらを支えとして、表現領域においては、知識や技能を活用しながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫していく過程を示した。また、鑑賞領域では、書表現を創造的に味わうことを通して、文字や芸術としての書の伝統と文化について深く捉え、文字や書の効用を生活や社会の中で生かしたり、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする過程を示した。
  - ・表現領域においては、書の伝統に基づく臨書活動や、表現を構想し工夫する活動を通して、用具・用材、表現方法などに関する事実的知識が、経験と結び付くことで概念化されるとともに、様々な場面で生きて働く効果的な書表現の技能として習得されるようにする。
  - ・鑑賞領域においては、国語科（書写）における文字文化についての学習を発展させ、文字や芸術としての書の伝統と文化を、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから捉えるようにする。また、文字や書の効用を生活や社会の中で生かしたり、作品の持つ意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする学習過程を通して、知識は往還しながら深まり、生きて働く知識として習得されるようにする。
  - ・表現領域と鑑賞領域は相互関連を図りながら、言語活動を通して、創造的に思考・判断していくことで、学習の深化を図るようにする。表現領域においては書こうとする言葉を選定したり、思いや意図を自らの言葉で表したりすること、鑑賞領域においては根拠を持って批評し合うことなどの様々な言語活動を通して、生活や社会における文字や書と豊かに関わる資質・能力を育むようにする。
  - ・これらの学習活動全体を根底で支えるのが書に対する感性であり、これは書の特質に根差した東洋的・日本的な感性を意味している。この書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性を高め、書の伝統と文化に豊かに関わり、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることを通して、美しいものや優れたものに接して感動する、豊かな情操を育成するようにする。
- なお、これらの学習過程における学習活動は、一方向の流れではなく、必要に応じて戻ったり繰り返したりすることが大切であること、また、一単位時間の中で全ての学習過程を実施するのではなく、その一部のみを実施する場合があることに留意する必要がある。
- このような学習活動を通じ、それぞれの過程において、資料2に掲げてあるような資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。

- 小学校及び中学校においては、それぞれの発達の段階に応じて、過程の一部を統合的に取り扱うことはあり得るものの、基本的には資料3と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

#### (4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

- 「目標に準拠した評価」の実質化を図るとともに、教科・校種を越えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、観点別評価の観点については、資質・能力の三つの柱を踏まえたものとするのが求められている。
- このため、本ワーキンググループにおいては、前述(2)に掲げた資質・能力を踏まえつつ、資料4のとおり観点と趣旨の考え方について整理したところである。
- この点に関し、「知識・技能」については、事実的な知識のみならず、生きて働く概念として習得されるものであることや、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくものであることまでも含めた広範な意味で用いられていることに留意する必要がある。
- また、「学びに向かう力・人間性等」の部分については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分があり、ここでは観点別評価として見取るべきものを掲げていることに留意する必要がある。
- 資質・能力の三つの柱を踏まえて整理した今回の観点別評価の観点については、新たに「知識」に関する観点と「技能」に関する観点を一つの観点として示すことや、表現領域における「思考力・判断力・表現力等」に関する観点と鑑賞領域における「思考力・判断力・表現力等」に関する観点を一つの観点として示すことから、具体的な学習評価の方法や、学習評価を子供たちの学びや指導の改善につなげる方策等について引き続き検討が求められる。
- 「評価の観点」の表記については、芸術系教科・科目を通じて育成する資質・能力を踏まえて、今後、更に検討する必要がある。

### **3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実**

#### (1) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の示し方の改善

- 芸術系教科・科目においては、現行の学習指導要領において、育成をする資質・能力を明確化しているが、今後、学習内容との関係について三つの柱に沿って整理された資質・能力や学びの過程の考え方を踏まえて、それらの趣旨を実現すべく、次の点から教育内容の示し方を改善することが求められる。

- ・小学校音楽科、中学校音楽科、高等学校芸術科（音楽）においては、現行の学習指導要領で複数の資質・能力を関連付けて示している学習内容を、三つの柱に沿って見直し、A表現、B鑑賞等の中で育成を目指す「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」について整理する。また、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕を、「音楽的な見方・考え方」との関連を考慮して位置付ける。「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽表現を創意工夫して思いや意図を音楽で表現する過程で、知識や技能を関連付けたり組み合わせたりしながら習得・活用できる、また、音楽のよさや美しさなどについて自分なりの考えを持ち味わって聴く過程で、知識を関連付けたり組み合わせたりしながら習得・活用できる学習過程を、学習指導要領の構造に反映する。

その際、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりするなどして、創造的に表現したり鑑賞したりする力を育成することや、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることを重視し、学習内容の見直しを図る。

- ・図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、現行の学習指導要領で明確にした、資質・能力と学習内容との関係を踏まえて、A表現、B鑑賞のそれぞれ領域の中で育成を目指す「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」について、それらと関連する項目や指導事項、内容の取扱いなどに明示する。また、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕を、「造形的な見方・考え方」との関連を考慮して位置付ける。また、「造形的な見方・考え方」を働かせて、発想や構想することと、創造的な技能を働かせることが、知識を得たり結び付けたり活用したりしながら相互に関連し高まる表現の学習と、対象のよさや美しさなどを感じ取り味わう鑑賞の学習が、相互に関連し合いながらそれぞれの能力を高められるような学習過程を、学習指導要領の構造に反映する。

その際、各学校段階の内容の連続性に配慮し、一人一人が、感性や想像力等を働かせて、思考・判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることを重視し、見直しを図る。

- ・高等学校芸術科（書道）においては、学習内容を三つの柱に沿って整理された資質・能力の在り方を踏まえて見直し、A表現、B鑑賞それぞれの領域の中で育成を目指す「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」について整理する。また、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕を、「書に関する見方・考え方」との関連を考慮して位置付ける。また、「書に関する見方・考え方」を働かせて、思いや意図に基づいて構想し表現を工夫していく過程で、知識や技能を関連付けて活用していく表現の学習と、書のよさや美しさを創造的に味わう過程で知識を得たり活用したりする鑑賞の学習において、知識や技能が思考・判断を通して往還しながら深まり、表現と鑑賞が相互に関連しながらそれぞれの能力を高められるような学習過程を、学習指導要領の構造に反映する。

その際、感性を働かせて、思考・判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活や社会の中での書の効用や働き、書の伝統と文化についての理解を深めることを重視し、学習内容の見直しを図る。

- ・主として専門学科において開設される教科としての音楽科、美術科については、音楽や美術に関する専門的な内容を指導する教科であることから、各科目における専門的な学習を通して育成を目指す資質・能力について、三つの柱に沿って整理する。

## (2) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

(伝統や文化に関する学習について)

- グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、音楽や美術、工芸、書の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。
- その際、生活の中に息づいている我が国の伝統や文化に目を向け、学校において体験的な学習を行い、我が国の伝統や文化と現代の生活とのつながりが実感できるよう、特定の教科だけでなく、複数の教科等による学習の連携を図るなど、指導の充実・改善を図り、総合的な視点から我が国の伝統や文化を捉えて指導することが重要である。例えば、歌詞については、日本語の抑揚や句読点への意識、歌われている情景や心情を想像することなど、国語科と連携して学習することが考えられる。また、我が国の屏風や掛け軸、器などの作品については、絵や書、焼き物などが扱われていたり、当時、日常に使われていた道具であったりすることから、芸術系教科・科目間や他教科等と連携して学習することが考えられる。

(生活や社会の中での働きについて)

- 芸術系教科・科目においては、子供たちが、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と自分との関わりを築いていけるようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる。特に、前述した各教科等において身に付ける資質・能力の三つの柱の中核となる、各教科等の本質に根ざした「見方・考え方」は、小・中学校においては〔共通事項〕とも深い関わりがある。これらの「見方・考え方」を、表現や鑑賞の学習を通して成長させることは、「見方・考え方」を単に授業の中だけにとどめておくものでなく、一人一人が、それぞれの学習で成長させた「見方・考え方」を働かせて、身の回りにある対象や事象と接する中で、これまで気付いていなかった



たよさや価値などに気付き、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と豊かに関わることにつながる重要な視点と考えられる。そして、このことは、心豊かに生きることや文化的な社会を創造していくことにもつながるのである。

- 例えば、身の回りにある芸術やその働きに気付かせていくような指導を重ねることや、表現するという行為を通して周囲と関わり、生活や社会と自分との関係性を実感するという体験を重ねることが重要である。
- また、授業で学習したことを、授業時間以外に、学校や地域で表現する場を用意するなど、学校自体が学校における学習と社会とをつないでいくことに取り組むことも重要である。特に芸術系教科は、教室内の人間関係にとどまらず、教職員や保護者、地域の人々などと連携ができる教科であり、身近なところから社会に関わる活動を進めていくことも、子供の学びを深めていく上で効果的である。

(生活環境の変化を踏まえた学習の在り方について)

- 子供たちが置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきている。例えば、音楽も映像情報とともに“見る”ものになっていることや、デジタル社会の中で体を動かす場面が少なくなっていること、鉛筆などの筆記具を持って文字を書く機会が減ってきていることなどが指摘されている。こうした環境の変化を踏まえて、例えば、我が国のよき音楽文化を伝える教材を扱ったり、実際にもものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動を重視したり、伝統的な書式で和紙の便箋や封筒を使用して手紙を書いたり、実感を伴う学習にするために畳や床の間といった伝統的な生活環境を活用したりするなど、学校教育において取り上げなければ出会うことのない教材や経験することのない活動を、子供たちに提供することも、学校教育の役割の一つである。

(言語活動の充実について)

- 芸術系教科・科目においては、思考力・判断力・表現力等を高めるため、言語<sup>3</sup>を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法（音や形、色など）を用いた言語活動や、音や形、色などにより表現されたことを捉えて言語化する言語活動を行っている。また、捉えたことを、喩えたり、見立てたり、置き換えたりすることは、表現や鑑賞を深めていく際に重要な活動である。このため、「アクティブ・ラーニング」の「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点からの学習・指導の改善・充実を図る上でも、現行の学習指導要領において重視されてきた言語活動については、芸術系教科・科目の特質に応じた充実を図ることが求められる。

---

<sup>3</sup> 広義の「言語」には、数字や音符なども含まれる場合もあるが、ここでは、「言語」は日本語や英語などの個別言語における話し言葉や書き言葉（文字）のことを指すものとする。

## 4. 学習・指導の充実や教材の充実

### (1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

- 各教科等における指導の場面において、様々な状態にある児童生徒に対する適切な配慮が一層充実されるよう工夫を講じる必要がある。
- このため、各教科等における具体的な学習の場面で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」の例について、以下のような形で明示していくことが適当である。

#### (音楽科、芸術科（音楽）における配慮の例)

- 音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律、強弱、反復等）の聴き取りが難しい場合は、音楽的な特徴を捉えやすくできるよう、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、音楽的な特徴を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意すること。
- 音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合は、表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう、感情やイメージを表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにするなどの配慮をする。
- 楽器の扱い、奏法などの理解や習得が難しい場合は、手順や身体の使い方、指の動かし方などを捉えられるように、図示したり、スモールステップを踏めるようにしたり、録画をして自分の動きを客観的に振り返ることができるようにするなどの配慮をする。
- 多くの情報量を前にして、自分がどこに注目したらよいのか混乱しやすい場合は、部分的な理解を深めるよう、拡大楽譜などを用いてパートを色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出しカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの配慮をする。
- 音楽表現や鑑賞することに対して消極的になっている場合は、楽曲等の教材に対して主体的に関わったり、自信を持って表現したりできるよう、児童生徒の音楽に対する興味・関心や音楽経験について把握し、それらを踏まえた音楽との出会わせ方や教材提示の仕方を工夫するなどの配慮をする。

#### (図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における配慮の例)

- 体験的な創造活動に対して、変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい場合は、造形的な特徴を理解し、創造的な技能が育つように、児童生徒の経験や実態を考慮して、特徴が分かりやすいものを例示することや、多様な材料や用具を用意したり、種類や数を絞ったりするなどの配慮をする。

- 自分の表したいことを見付けることが難しい場合は、発想や構想をしやすくするために、材料に触れたり、体の感覚を働かせたりして、実感の伴う活動を設定するなどの配慮をする。
- 自分の表現の意図に対して、材料や用具を生かし方が思い付かない場合は、見通しを持って創造的な技能が働くように、図や写真等で示した材料や用具、用途一覧などを準備し、一人一人がその中から選択できるようにするなどの配慮をする。
- 形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージを持つことが難しい場合は、形や色などに対する気付きや豊かなイメージにつながるように、自分や他の人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定するなどの配慮をする。
- 話し合ったり、批評し合ったりする際に、一方的に自分の価値や解釈を話し続けてしまう場合は、対話に必要なルールがわかるように、話す時間や話す際の約束事を掲示物などで視覚化して気付かせるなどの配慮をする。

#### (芸術科(書道)における配慮の例)

- 自らの意図にふさわしい用具・用材の選択や扱い方を理解することが難しい場合は、実物を準備して、作品として表現する前に実際に使用することで特徴を理解し、その中から主体的に思考・判断しながら選択して表現できるような配慮をする。
- 書を構成する複数の要素を結び付けて考えたり、再現する手順を考えたりすることが難しい場合、付箋等を活用して優先順位を付けたり、関連する要素をグループにするとともに、自分が試みたいテーマと関係のない要素を省いたりする等の取り組み方の手順を教えるよう配慮する。
- 書を鑑賞して自分の内面に生まれる様々なイメージや感情、意図の気付き等を言語化することが難しい場合、表すきっかけとなるよう、キーワードを示したり、選択肢を用いたりするなどの配慮をする。
- 一方的に自分の感じ方や意図、解釈を話し続けてしまう場合、話す時間やルールがわかるように、話す際のルールを明確にし、視覚化するなどの配慮をする。
- 作者の意図と、それを表す技能との関係がイメージしにくい生徒の場合、まず、表現の意図を解説した後に作品を味わわせるなど、活動の順番を工夫したり、実際の作品における具体例などを示したりして、作品の価値や意味を見いだすことができるように配慮する。

#### (個に応じた学習の充実)

- 芸術系教科・科目においては、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要であり、これまでも互いの表現のよさや個性などを認め尊重し合う活動を重視してきた。今後も、これまで芸術系教科・科目が大切にしてきた学びを一層重視し、

一人一人の状況や発達の段階に配慮し、個に応じた学習を充実させていくことが求められる。

## (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導の改善・充実においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現が大切であり、「～法」、「～型」といった特定の学習活動や学習スタイルの固定化や普及を求めているものではなく、画一的な指導にならないよう留意して、指導方法の不断の見直しや改善を求めていることを踏まえることが大切である。なお、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、一つずつ独立して考えるものではなく、それぞれの視点から学習・指導を捉え直すことによって、一体として改善・充実が図られるものである。
- 従来、芸術系教科・科目においては、心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通してよさや価値を実感する活動を重視してきた。今後、「アクティブ・ラーニング」の視点に立ち、活動と学びの関係性や、活動を通して何が身に付いたのかという観点から、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。また、その実現のためにも、子供にどのような力が身に付いたのかを見取っていく学習評価が重要となる。

### 【音楽科、芸術科（音楽）】

#### (小学校音楽科)

- 「主体的な学び」の実現のためには、体を動かす活動を取り入れるなどして、児童が音楽のよさなどを感じ取れるようにし、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせることが重要である。このことが、イメージや気持ちの変化を喚起させる要因となった音楽的な特徴に気付く原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさなどを見いだす見通しを持つことにつながる。また、音楽表現を工夫して音楽で表現したり、音楽のよさなどを見いだし味わって聴いたりする過程で持ったイメージや気持ちの変化を振り返り、音や音楽が自分の気持ちにどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値に気付くこととなる。このことが次の学びにつながっていく。
- 「対話的な学び」の実現のためには、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、互いに気付いたことや感じ取ったことなどについて交流し、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりすることが重要である。客観的な理由を基に友達と交流し、自分なりに考えを持ち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に学習としての意味がある。
- 「深い学び」の実現のためには、児童が音や音楽に出会う場面を大切にし、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、一人一人が音楽と主体的に関わるができるようにするこ

とが重要である。その際、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、音楽との一体感を味わったり、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造との関わりについての理解と、どのように音楽で表すか、楽曲や演奏のよさは何かなどについての思考・判断を促すことにつながる。なお、表現領域の学習では、思考、判断の過程との関連を図りながら、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにすることも重要である。また、それらを積み重ねることによって、「音楽的な見方・考え方」を成長させ、表現や鑑賞の学習を深めていくことが重要である。

- 例えば音楽づくりの学習において表現を工夫する場面で、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、まとまりを意識してつくった音楽について気付いたことを、音楽的な特徴に関することと表したい音楽のイメージに関わることに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識・技能を得たり、それらの知識・技能と考えたことを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、音楽を形づくっている要素の働きを捉え、つくる音楽のイメージを膨らませながら、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの組み合わせなどを試行錯誤し、どのような音楽にするかについて自分の考えを持って意見交換したりつくり変えたりして、つくる音楽に対する思いや意図を持てるようにすることなどが考えられる。
- 例えば鑑賞の学習において感じ取ったことなどを言葉で表す場面で、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、児童が気付いたことを、音楽的な特徴に関することと曲想に関することに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わり合いについて考えたり、それらの知識と考えたことを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、その楽曲における音楽を形づくっている要素の働きを捉え、楽曲や演奏のよさなどについて自分の考えを持って意見交換をしたり聴き返したりして、自分にとっての音楽のよさなどを見いだせるようにすることなどが考えられる。

(中学校音楽科)

- 「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、楽曲の背景との関わりを考えたりすることの原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しを持つことにつながる。また、音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程で持ったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚することとなる。このことが次の学びにつながっていく。
- 「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことな

どについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりすることが重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を構築したりしていく過程に学習としての意味がある。

- 「深い学び」の実現のためには、生徒が音や音楽と出会う場面を大切にし、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持つこと、また楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる。なお、表現領域の学習では、思考・判断の過程との関連を図りながら、自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにすることも重要である。また、それらを積み重ねることによって、「音楽的な見方・考え方」を成長させ、表現や鑑賞の学習を深めていくことが重要である。
- 例えば器楽表現を創意工夫する場面で、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、演奏したり聴いたり楽譜から読み取ったりして気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることとに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識・技能や楽器の特徴に関わる新たな知識・技能を得たり、それらの知識・技能と考えたこととを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、その楽曲における音楽を形づくっている要素の働きを捉え、その働きと楽器の音色や奏法の特徴を生かし、音楽でどのように表現するかについて根拠を持って意見交換したり試奏したりして、器楽表現に対する思いや意図を持てるようにすることなどが考えられる。
- 例えば鑑賞の学習において批評する場面で、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽を聴いて気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることとに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識や楽曲の背景に関わる新たな知識を得たり、それらの知識と考えたこととを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、その楽曲における音楽を形づくっている要素の働きと楽曲の背景となる文化・歴史などや自分の感情の変化との関わりについて根拠を持って意見交換したり聴き返したりして、自分なりに解釈し、自分にとっての音楽の意味や価値を生み出せるようにすることなどが考えられる。

(高等学校芸術科(音楽Ⅰ))

- 「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景との関わりを考えたりすること

の原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しを持つことにつながる。また、音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程で持ったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚するとともに、音や音楽を生活や社会に生かそうとする態度を育成することとなる。このことが次の学びにつながっていく。

- 「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。
- 「深い学び」の実現のためには、中学校音楽科における学習を基礎として、生徒が音や音楽と出会う場面を大切に、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて表現意図を持つこと、また楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分や社会にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる。なお、表現領域の学習では、思考・判断の過程との関連を図りながら、個性を生かした音楽表現を創意工夫したり、表現意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにすることも重要である。また、それらを積み重ねることによって、「音楽的な見方・考え方」を成長させ、表現や鑑賞の学習を一層深めていくことが重要である。
- 例えば歌唱表現を創意工夫する場面で、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、歌ったり聴いたり楽譜から構成や形式などを読み取ったりして気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識・技能や歌詞やその背景に関わる新たな知識を得たり、それらの知識・技能と考えたこととを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、その楽曲における音楽を形づくっている要素の働きを捉え、その働きと歌詞の内容や言葉の特徴を生かし、音楽でどのように表現するかについて根拠を持って意見交換したり歌い試したりして、歌唱表現に対する表現意図を持つてできるようにすることなどが考えられる。
- 例えば鑑賞の学習において批評する場面で、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽を聴いて気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識や楽曲の文化的・歴史的背景に関わる新たな知識を得たり、それらの知識と考えたこ

ととを関連付けたり組み合わせたりできるようにする。この過程を行き来しながら、その楽曲における音楽を形づくっている要素の働きと楽曲の文化的・歴史的背景などや自分の感情の変化や音楽と生活や社会との関わりについて根拠を持って意見交換したり聴き返したりして、自分なりに解釈し、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を創造できるようにすることなどが考えられる。

## 【図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）】

（小学校図画工作科）

- 「主体的な学び」の実現のためには、図画工作科は、一人一人が活動全体を通して意欲的な活動を積み重ね、作り出す喜びを味わう、最後までやり遂げるなどの学習であることを踏まえることが大切である。その上で、発想や構想をする場面、創造的な技能を働かせる場面、作品などからよさや美しさを感じ取る場面のそれぞれにおいて、子供が「造形的な見方・考え方」を働かせるようにすることが重要である。具体的には、一人一人が資質・能力を十分に働かせることのできる学習活動にするために、これまでの経験を生かすことのできる学習の充実を図ること、自分の活動を確かめたり振り返ったりするような場面を設定し造形的な創造活動における自分の成長やよさ、可能性などに気づき、次の学習につなげられるようにすることなどが重要である。
- 「対話的な学び」の実現のためには、図画工作科は、教員や友達、地域の人だけではなく、自分と対話しながら学ぶ学習活動だということを踏まえることが大切である。その上で、一人一人の資質・能力を高めるために、対話の対象や方法を考え学習活動を設定することが重要である。具体的には、一人で材料や場所、作品と向き合うなどの自分との対話を大切にしつつ、子供が自分の「造形的な見方・考え方」を働かせて、表したいことや用途、材料や場所の特徴、表し方などについて、お互いの活動を見合いながら考えたことを伝え合ったり感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実すること、教員との対話、子供同士の対話だけではなく、保護者や地域、社会の人と交流する機会を設定し、一人一人の資質・能力を伸ばすようにすることが大切である。
- 「深い学び」の実現のためには、図画工作科は造形的な創造活動において、表したいことやつくりたいこと、見たいことなど、子供が自ら課題を見付けることを重視している学習であることを踏まえることが大切である。その上で、一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせて、造形的な創造活動に取り組むことができるようにすることが重要である。具体的には、表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力を明確にし、それらの資質・能力を相互に関連して働かせることができる活動を設定すること、子供が自ら学びを深めていくことができるように、つくり、つくりかえ、つくるという学習過程を重視すること、子供自身が学びの実感を持つことができるように、教員が教える場面と子供たちが「造形的な見方・考え方」を働かせて友達と共に学び合う場面との関連を考え授業設定をすることなどが重要である。



- 例えば、材料や場所などを基に造形遊びをする表現の活動において、発想や構想の能力を高めるために、材料や場所と関わる中から生まれた一人一人の気付きやイメージなどを基に子供が自然に発想を交流したり話し合ったりするようにし、子供が「造形的な見方・考え方」を働かせて材料や場所などに働きかけながら一人一人が思い付いたことを出し合い、発想を刺激し合いながら活動できるようにグループで造形活動を行う学習を設定することが考えられる。また、創造的な技能を高めるために、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、その中から適切なものを選んだり新しい材料や用具の扱いに慣れたりすることで、表し方を工夫するなどの学習が考えられる。
- 例えば、作品などからよさや面白さを感じ取る鑑賞の活動において、鑑賞の能力を高めるために、子供が自分で見付けたよさや面白さに自ら気付き、それを表現や鑑賞に生かすようにし、子供が「造形的な見方・考え方」を働かせて、自分の作品のイメージや美術作品から気付いたことについて自分なりの意味や根拠を持って話したり、気持ちを振り返って書いたりする学習が考えられる。また、グループで一つの作品に対して意見を述べ合ったり、年度末や学期末に作品などを友達と見合いながら、これまでの活動を振り返ったりするなどの学習も考えられる。

(中学校美術科)

- 「主体的な学び」の実現のためには、発想や構想をする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩などの性質や、それらがもたらす感情の効果などに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で捉えたり、自己の創出した主題や、対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。
- 「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、創造活動を通して、形や色彩などの性質や、それらがもたらす感情の効果などを理解し、説明し合ったり、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして、自分の見方や感じ方を深めたりよさや美しさなどを幅広く味わったりするなどの言語活動を一層充実させることが重要である。
- 「深い学び」の実現のためには、「造形的な見方・考え方」を働かせて、形や色彩などと豊かに関わる学習活動を通して、美術の創造活動を主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに発想や構想をし、創造的な技能を働かせて作り出す表現の能力と、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わうなどの鑑賞の能力を相互に関連して働くようにし、教科において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。

- 例えば、表現の能力である、発想や構想の能力と創造的な技能を高めるために、発想や構想をする場面において、主体的に表現する学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、生徒が自ら強く表現したいことを心の中に思い描き、発想や構想することができるように、形や色彩などの造形の要素の特徴などに意識を向けて考えさせ、アイデアスケッチや言葉などで考えを整理したりするなどの学習が考えられる。また、創造的な技能を働かせる場面では、発想や構想をしたことなどを基に自分の表現を具現化できるように、生徒が自分の持っている力を発揮しながら表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫する場面を指導者が意図的に位置付け、発想や構想の能力と創造的な技能を関連させながら活動ができるような学習が考えられる。
- 例えば、鑑賞の能力を高めるために、鑑賞の活動の場面において、主体的に鑑賞する学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、一人一人が自分の作品の見方や感じ方を大切に、美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わうことができるように、形や色彩などの造形の要素の特徴などに意識を向けて考えさせ、対象とじっくりと向き合い作品などが訴えてくるものを読み取る活動や、造形的な視点を持つるようになる場面を意図的に設定することが考えられる。また、自身が感じ取った理由や要素を様々な角度から作品を見つめ洞察的な思考を重ねながら追及できるように、グループで作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活や社会における美術の働き、美術文化などについて感じ取ったり考えたりして、対象の見方や感じ方を広げたり、自己の考えを深めることができるような学習が考えられる。
- また、表現及び鑑賞の学習効果を高めるために、各題材や指導計画の作成において、表現及び鑑賞のそれぞれの目標と内容を明確にし、表現の能力や鑑賞の能力を相互に関連させることで、表現活動の学習が鑑賞の学習に生かされ、鑑賞活動の学習が表現の学習に生かされるような学習が展開されることが求められる。

(高等学校芸術科(美術Ⅰ))

- 「主体的な学び」の実現のためには、主題を生成したり構想をしたりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えたり、自己の生成した主題や対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。
- 「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、創造活動を通して、形や色彩などの造形の要素の働きなどを理解し、美術作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、

自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるなどの言語活動を一層充実させることが重要である。

- 「深い学び」の実現のためには、中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、芸術としての美術と豊かに関わる学習活動を通して、美術の創造活動を主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに主題を生成したり発想や構想をしたりし、創造的な技能を働かせてつくりだす表現の能力と、美術作品や文化遺産などを様々な観点から鑑賞して、そのよさや美しさを創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連して働くようにし、教科・科目において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。
- 例えば、表現の能力である、発想や構想の能力と創造的な技能を高めるために、発想や構想をする場面において、主体的に表現の学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、主題を生成し、発想や構想することができるように、形や色彩などの造形の要素の働きに意識を向けて考えさせ、スケッチやデッサンによって観察力を深めたり、図式化、言葉などで考えを整理したりするなどの学習が考えられる。また、創造的な技能を働かせる場面では、発想や構想をしたことなどを基に自分の表現を追求できるように、生徒が自分の持っている力を発揮し意図に応じて材料や用具の特性を生かしながら表現方法を工夫する場面を指導者が意図的に位置付け、発想や構想の能力と創造的な技能を関連させながら活動ができるような学習が考えられる。
- 例えば、鑑賞の能力を高めるために、鑑賞の活動の場面において、主体的に美術の鑑賞の学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、生徒が自己を見つめ、自分の価値意識を持って美術を捉えることができるように、形や色彩などの造形の要素の働きに意識を向けて考えさせ、一人一人が作品との対話を重ねられるようにしたり、美術作品やお互いの作品について批評し合い討論したりするなどして、新たな視点で作品を捉え直したり、他の作品と比較して相違や共通性に気付けるような学習が考えられる。
- また、表現及び鑑賞の学習効果を高めるために、各題材や指導計画の作成において、表現及び鑑賞のそれぞれの目標と内容を明確にし、表現の能力や鑑賞の能力を相互に関連させることで、表現活動の学習が鑑賞の学習に生かされ、鑑賞活動の学習が表現の学習に生かされるような学習が展開されることが求められる。

(高等学校芸術科(工芸Ⅰ))

- 「主体的な学び」の実現のためには、思いや願いを持ち、自らの発想や構想をしたりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩、素材などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えたり、自己の思いや願い、対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に

考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。

- 「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、創造活動を通して、形や色彩、素材などの造形の要素の働きなどを理解し、工芸作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げ、作品に対する理解を深めるなどの言語活動を一層充実させることが重要である。
- 「深い学び」の実現のためには、中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、生活を心豊かにする芸術としての工芸と豊かに関わる学習活動を通して、創造活動を主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに発想や構想をしたりし、創造的な技能を働かせて制作する表現の能力と、工芸作品や伝統工芸などを様々な観点から鑑賞して、そのよさや美しさを創造的に味わうなどの鑑賞の能力を相互に関連して働くようにし、教科・科目において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。
- 例えば、表現の能力である、発想や構想の能力と創造的な技能を高めるために、発想や構想をする場面において、主体的に表現の学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、自己の思いや、使う人の願いなどを基に、心豊かな発想や制作の構想をすることができるように、作品を見たり実際に触ったり使ってみたりする体験を重視するとともに、生活を心豊かにするための工夫の視点や、形や色彩、素材などの造形の要素の働きに意識を向けて考えさせ、スケッチや図面、模型、言葉などで考えを整理したりするなどの学習が考えられる。また、創造的な技能を働かせる場面では、発想や構想をしたことなどを基に創意工夫して制作できるように、生徒が自分の持っている力を発揮し意図に応じて材料や用具を活用しながら手順や技法などを吟味する場面を指導者が意図的に位置付け、発想や構想の能力と創造的な技能を関連させながら活動ができるような学習が考えられる。
- 例えば、鑑賞の能力を高めるために、鑑賞の活動の場面において、主体的に工芸の鑑賞の学習に取り組み、「造形的な見方・考え方」を働かせて、生徒が自然や社会と工芸の関係を理解し、自分の価値意識を持って工芸を捉えることができるように、伝統的な作品から現代の工芸作品、工業製品、生徒の作品、また身近にあるものなど幅広く扱い、実物に触れたり、実際に使ったりして、形や色彩、素材などの造形の要素の働きに意識を向けて考えさせ、一人一人が作品との対話を重ねられるようにしたり、工芸作品やお互いの作品について批評し合い討論したりするなどして、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、作品の見方や感じ方を広げ、深めることができるような学習が考えられる。
- また、表現及び鑑賞の学習効果を高めるために、各題材や指導計画の作成において、表現及び鑑賞のそれぞれの目標と内容を明確にし、表現の能力や鑑賞の能力を相互に関連させることで、表現活動の学習が鑑賞の学習に生かされ、鑑賞活動の学習が表現の学習に生かされるような学習が展開されることが求められる。

## 【芸術科（書道）】

### （高等学校芸術科（書道Ⅰ））

- 「主体的な学び」の実現のためには、生徒の作品の構想段階から完成に至るまでの作品の変容を実感的に確認することで、新たな見通しを持って次の表現へと展開していく活動、また、書の持つよさや美しさを創造的に捉え、自らの生活と関連付けたり、生活や社会における文字や書の働きについて考えたりする活動の充実を図り、それらの学習活動を振り返ることで、次の学びにつなげていくことが重要である。
- 「対話的な学び」の実現のためには、感性を働かせて、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で書を捉え、作品について感じたことを確かな言葉で伝えたり、互いに批評し合ったりするなどの言語活動を通して、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉える活動を一層充実することが重要である。
- 「深い学び」の実現のためには、中学校国語科（書写）の学習を発展させて、「書に関する見方・考え方」を働かせて、芸術としての書と豊かに関わりながら書の創造的活動を展開していくことが重要である。感性を働かせて、思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫していく表現の能力と、書のよさや美しさを感じ、創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連させながら、育成を目指す資質・能力を着実に身に付けていくことが重要である。
- 例えば、表現領域の臨書活動においては、「書に関する見方・考え方」を働かせて、古典や古筆の特徴を深く捉え、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を習得して作品として表していく学習が考えられる。また、創作活動では、自らの思いや意図に基づいて作品を構想し、それにふさわしい用具・用材を選択したり、書の伝統に基づく技能を効果的に活用したりして、試行錯誤しながら表現を深めていく作品の変容過程に視点を置いた学習が考えられる。
- 例えば、鑑賞領域においては、書を構成する要素やその関連から生み出される働きの視点で作品を捉え、表現効果などを分析的に捉える活動を効果的に設定することが考えられる。生徒の作品の鑑賞活動では、書かれた言葉と表現の関わり、意図に基づく構想、表現の工夫などが実際に制作された作品にどのように表されているかについて意見交換したり、他人の作品について根拠を示しながら批評し合ったりする活動を通して、価値意識を持って作品を捉える学習が考えられる。古典や名筆の鑑賞活動においては、作品のよさや美しさを確かな言葉で表し、書かれた詩句の内容、作者、歴史的背景、諸文化などとの関連から捉えるなどして、自分なりの意味や価値を見いだしていく学習が考えられる。
- また、我が国の書が、漢字を受容し、仮名を生成して漢字仮名交じり文を成立させる過程の中で、独自の書の伝統と文化を豊かに発展させてきたことを踏まえながら、鑑賞の深化を図る学習が考えられる。

### (ICTの活用)

- 主体的・対話的で深い学びを実現する上で、ICTを活用することも効果的である。
  - ・例えば、電子黒板等を使って楽譜を提示し、子供たちが、聴いている音楽を視覚的に又は動的に確認する活動や、子供たちの演奏を録音して、自身の演奏を振り返る時に、録音した実際の演奏を聴きながら議論する活動が考えられる。
  - ・例えば、デジタルカメラやタブレット端末によって、映像メディア機器の積極的な活用を図った表現活動や、各段階における自身の作品を撮影して学習過程を振り返る活動、作品を拡大したり動かしたり他の作品と並べたりするなどICT機器の機能を生かした鑑賞活動が考えられる。
  - ・例えば、書画カメラを効果的に活用し、教員や生徒が実際に表現する過程を大型スクリーンに写し出して用筆法について理解を深める表現活動や、タブレット端末を使用した作品の草稿づくり、各段階における作品をタブレット端末で撮影しポートフォリオとして記録して、作品の変容過程を互いに振り返る活動などが考えられる。
- なお、ICTの活用にあたっては、遠方の美術館や博物館等にある作品を、教室の中で見ることができるという利点がある一方、芸術系教科・科目においては、視覚、聴覚、触覚などの身体性を通して“本物に接する”という体験が変わらず重要であることに留意する必要がある。このため、ICTを活用する際にも、子供の実感と結び付いた活用となるよう留意する必要がある。また、ICT機器を使うこと自体が目的化しないよう留意する必要がある。
- その他、授業におけるICTの活用のほか、授業以外の時間や家庭等において、授業で学習したことを使って楽しむなどの活用も考えられる。

### (3) 教材の在り方

- 音楽科、芸術科（音楽）においては、我が国の音楽文化に親しみ一層の愛着を持つ観点から、我が国の自然や四季、文化、日本語の持つ美しさなどを味わうことのできる歌曲を取り上げるようにする。また、小・中学校音楽科においては、我が国のよき音楽文化を、世代を超えて受け継がれるようにする観点から、引き続き、歌唱共通教材を示していく必要がある。なお、その選曲や指導の在り方については検討が必要である。
- 音楽科、芸術科（音楽）においては、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、児童生徒の実態を踏まえ、指導のねらいに適切なものを幅広く取り扱う必要がある。特に、地域にある郷土の音楽を、適宜、教材として取り入れることを検討することも考えられる。また、主たる教材などについては、一人一人が「音楽的な見方・

考え方」を働かせて、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点からの学習過程の質的改善につながるような示し方の工夫などが求められる。

- 小学校図画工作科、中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）においては、学習指導要領に示す育成する資質・能力と学習内容を踏まえ、児童生徒の実態に応じて題材を工夫することが大切である。特に、表現の学習に使用する教材については、個性やよさなどを伸張する観点から、一人一人が、自分のよさを発見し喜びを持って自己実現を果たしていく態度の形成を図るように、児童生徒の実態に応じた多様な視点から設定することが求められる。
- 小学校図画工作科、中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）において、児童生徒が使用する教材などについては、一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせて、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」を相互に関連させる、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点からの学習過程の質的改善につながるような示し方の工夫などが求められる。例えば、主たる教材には、作品とともに児童生徒の活動の様子も示し、育成する資質・能力が教員にも分かるようにすることが大切である。
- 高等学校芸術科（書道）において、生徒が「書に関する見方・考え方」を働かせながら、表現や鑑賞の活動を行うことができるよう、主たる教材などにおいては、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点からの学習過程の質的改善につながるよう、教材の示し方の工夫などが求められる。また、教員が生徒の実態に応じて、教材を選択して扱うことができるよう多様な視点から示していくことが大切である。
- ICTの技術的な進展を踏まえ、自分の思いや意図、イメージを具現化したり、創造性を養ったりすることを可能とするICT教材の開発が期待される。

## 5. 必要な条件整備等について

- こうした学習指導要領の趣旨を実現できるよう、引き続き、教員養成や教員研修による教員の資質・能力の向上、教材や材料、用具、環境等の整備を図ることが求められる。
- 2.～4.に述べてきた芸術系教科・科目の学びをより深めるためには、学校や地域の実態に応じて、文化施設、社会教育施設、地域の文化財等の活用が重要である。例えば、実物の美術や書の作品、専門家による演奏を、直接、鑑賞する機会が得られるようにしたり、作家や学芸員、音楽団体等と連携したりして、可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定することなどが考えられる。その際、地域の美術館や音楽ホールなどと連携を図ったりできるように、時間や交通の手段などについて、各学校や教育委員会において工夫することが大切である。また、この学習の計画に当たっては、総合的な学習の時間や学校行事、地域に関係する行事などとの関連を図るなどの工夫も考えられることや、それぞれの美術館や関係機関等において行われている研修会などと連携し、教員の指導力等の資質・能力の向上を図ることも重要である。

- 音楽科、芸術科（音楽）においては、我が国の伝統音楽の指導について、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を展開するために、教員研修を充実する必要がある。都道府県市においては、文部科学省主催「伝統音楽指導者研修会」で研修を受けた教員等が各地域で指導者として研修を行えるようにするなど、教員研修を充実する体制を整えていくことが重要である。
- 音楽科、芸術科（音楽）の学習の目標を実現するために、和楽器の整備を更に進める必要がある。
- 図画工作科の学習の目標を実現するために、材料や用具などを充実し、土を焼成する経験ができる設備などの整備を更に進める必要がある。
- 国や各都道府県政令市等の教育委員会は、本ワーキンググループで取りまとめた、芸術系教科・科目における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で示された資質・能力の育成や、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善、子供たちの学びや指導の改善充実に資する学習評価の在り方等を学校現場に丁寧に説明・周知することや、必要な条件整備を行うことが求められる。
- 高等学校芸術科においては、一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術への永続的な愛好心を育てていくことが求められることから、各学校において、音楽、美術、工芸、書道の全てが開設されることが求められる。また、これからの生涯学習社会の一層の進展に対応することや、我が国の芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、我が国及び諸外国の芸術文化を尊重する態度の育成を一層充実させる観点から、必修のⅠを付す科目だけでなく、可能な限りⅡ及びⅢを付す科目が履修できるように教育課程に位置付けることが求められる。
- 小学校図画工作科、中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）における、デジタルカメラやタブレット端末などの活用を図った表現活動、また、小学校音楽科、中学校音楽科、高等学校芸術科（音楽、書道）におけるタブレット端末などの活用を図った表現及び鑑賞の活動においては、一人一人の個性やよさなどを伸張する観点から、一人一台の機器が配備されるようICT環境の整備が求められる。



## 【高等学校】芸術科（音楽Ⅰ）

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を創意工夫したり、音楽を価値判断しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりする力を育てる。
- ③ 音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、生涯にわたり音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、芸術としての音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度を養う。

## 【中学校】音楽科

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かして音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに価値判断しながらよさや美しさを味わって聴いたりする力を育てる。
- ③ 音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を養う。

## 【小学校】音楽科

- ◎ 音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ② 音楽表現を工夫したり、楽曲や演奏のよさなどを見いだしたりしながら音楽を味わって聴いたりする力を育てる。
- ③ 音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、豊かな情操を養う。

## 【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）

## 【高等学校】芸術科（美術Ⅰ）

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての美術の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。

## 【高等学校】芸術科（工芸Ⅰ）

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えたりする力を育てる。
- ③ 芸術としての工芸の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり工芸を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

## 【中学校】美術科

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりする力を育てる。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

## 【小学校】図画工作科

- ◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する創造的な技能を身に付けるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深め、味わう力を育てる。
- ③ つくりだす喜びを味わうとともに、感性をはぐくみ、楽しく豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

## 【幼稚園】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）

## 【高等学校】

◎ 書に関する見方・考え方を働かせて、書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現を工夫して表すための効果的な技能を身に付けるようにする。
- ② 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする力を育てる。
- ③ 書の創造的活動の喜びを味わい、生涯にわたり書を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、芸術としての書を通して生活を心豊かにする態度を養う。

（国語科（必修科目）

「現代の国語」（仮称）

・書写能力を実社会・実生活に生かすこと

「言語文化」（仮称）

・古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めること

## 【中学校】

（国語科（書写））

- ・文字を正しく整えて速く書くことができる。
- ・書写能力を社会生活に生かすとともに、文字文化について理解することができる。

## 【小学校】

（国語科（書写））

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を学習活動や日常生活に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができる。

## 【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）
- ・遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。（数量・図形、文字等への関心・感覚）
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。（言葉による伝え合い）
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）

## 音楽科、芸術科（音楽）において育成を目指す資質・能力の整理

|                    | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等   | 学びに向かう力・人間性等  |
|--------------------|---|--|---|
| 高等学校<br>芸術<br>(音楽) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の働きと関わらせて理解すること</u>など</li> <li>・個性を生かした音楽表現を創意工夫したり、表現意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けることなど</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知識や技能を得たり活用したりして音楽表現を創意工夫し、楽曲の背景などに関わらせながら表現意図を創造すること</u>など</li> <li>・感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知識を得たり活用したりして音楽を自分なりに解釈したり、音楽と生活及び社会などとの関連から音楽を捉えたり、自分や社会にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造すること</u>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・協働して音楽活動する喜びの自覚</li> <li>・芸術としての音楽の学習に主体的に取り組む態度</li> <li>・生涯にわたり音楽を愛好する心情</li> <li>・よりよい音環境を求める態度</li> <li>・音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度</li> <li>・我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p>など</p> |
| 高等学校<br>音楽         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関する専門的な知識及び音楽表現の技能</li> </ul> <p>など</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせ、音楽を分析的かつ総体的に捉え、根拠をもって解釈し、明確な表現意図をもったり、音楽作品や演奏などについて批評する能力を高めたりして、音楽の社会的・文化的な意味や価値から芸術文化の発展について考え、創造すること</li> </ul> <p>など</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・音楽の専門的な学習に主体的に取り組む態度</li> <li>・音楽文化の発展と創造に寄与する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p>など</p>  |



# 音楽科、芸術科（音楽）において育成を目指す資質・能力の整理

|           | 知識・技能  | 思考力・判断力・表現力等  | 学びに向かう力・人間性等   |
|-----------|--|---|--|
| 中学校<br>音楽 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること</u><br/>など</li> <li>・自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を生み出すこと</u><br/>など</li> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり、音楽と人々の暮らしなどとの関連から音楽を捉えたり、自分にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を生み出すこと</u><br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・協働して音楽活動する喜びの自覚</li> <li>・音楽の学習に主体的に取り組む態度</li> <li>・音楽を愛好する心情</li> <li>・音環境への関心</li> <li>・音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度</li> <li>・我が国の音楽文化への愛着や、諸外国の様々な音楽に関わる態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操<br/>など</li> </ul> |

# 音楽科、芸術科（音楽）において育成を目指す資質・能力の整理

|           | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等   | 学びに向かう力・人間性等   |
|-----------|---|--|--|
| 小学校<br>音楽 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造との関わりについての理解、<u>音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通した理解</u><br/>など</li> <li>・自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら</u>、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力<br/>など</li> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの感じ取りながら</u>、知識を得たり活用したりして、楽曲や演奏のよさなどを考え味わい、自分にとっての音楽のよさなどを見いだす力<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性</li> <li>・協働して音楽活動する喜びの実感</li> <li>・音楽の学習に主体的に取り組む態度</li> <li>・音楽を愛好する心情</li> <li>・生活の中の様々な音や音楽への気付き</li> <li>・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度</li> <li>・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしている態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操<br/>など</li> </ul> |

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

|                    | 知識・技能  | 思考力・判断力・表現力等  | 学びに向かう力・人間性等   |
|--------------------|--|---|--|
| 高等学校<br>芸術<br>(美術) | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について実感的に理解を深めること。</li> <li>感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の創造活動の喜び</li> <li>芸術としての美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり美術を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美術文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> |
| 高等学校<br>美術科        | <ul style="list-style-type: none"> <li>美術に関する専門的な知識及び創造的な技能</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的直感力，想像力を豊かに働かせ，個性豊かな発想や構想をしたり，美術作品や文化財などについて批評する能力を高めたりして，地域や社会全般にわたる芸術文化の発展について考え、創造すること。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の専門的な学習に主体的に取り組む態度</li> <li>美術文化の発展と創造に寄与する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul>   |

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

|                    | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等  | 学びに向かう力・人間性等  |
|--------------------|---|---|---|
| 高等学校<br>芸術<br>(工芸) | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について美感的に理解を深めること。<br/>など</li> <li>感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，<u>材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと。</u><br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、<u>意図と表現の工夫</u>などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ること。<br/>など</li> <li>感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、<u>意図と表現の工夫</u>などについて考え、<u>工芸や工芸の伝統と文化</u>などについて自分の見方や感じ方を深め、<u>価値意識</u>を持って工芸を捉えること。<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの<u>価値や心情</u>などを感じ取る感性</li> <li>工芸の創造活動の喜び</li> <li>芸術としての工芸の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり工芸を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>工芸の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する，<u>情感豊かな心</u>としての情操<br/>など</li> </ul> |

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容



# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

|           | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等  | 学びに向かう力・人間性等   |
|-----------|---|---|--|
| 中学校<br>美術 | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について実感的に理解を深めること。</li> <li>など</li> <li>感性や造形感覚を働かせて、<u>材料や用具</u>を生かし、表現方法を工夫して、<u>創造的に表すこと</u>。</li> <li>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、<u>創造的な表現の構想を練ること</u>。</li> <li>など</li> <li>感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、<u>美術や美術文化など</u>について自分の見方や感じ方を深め、<u>味わうこと</u>。</li> <li>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>美術の創造活動の喜び</li> <li>美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>美術を愛好する心情</li> <li><u>形や色彩など</u>によるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美術文化の継承と創造への関心</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、<u>情感豊かな心としての情操</u></li> <li>など</li> </ul> |

下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

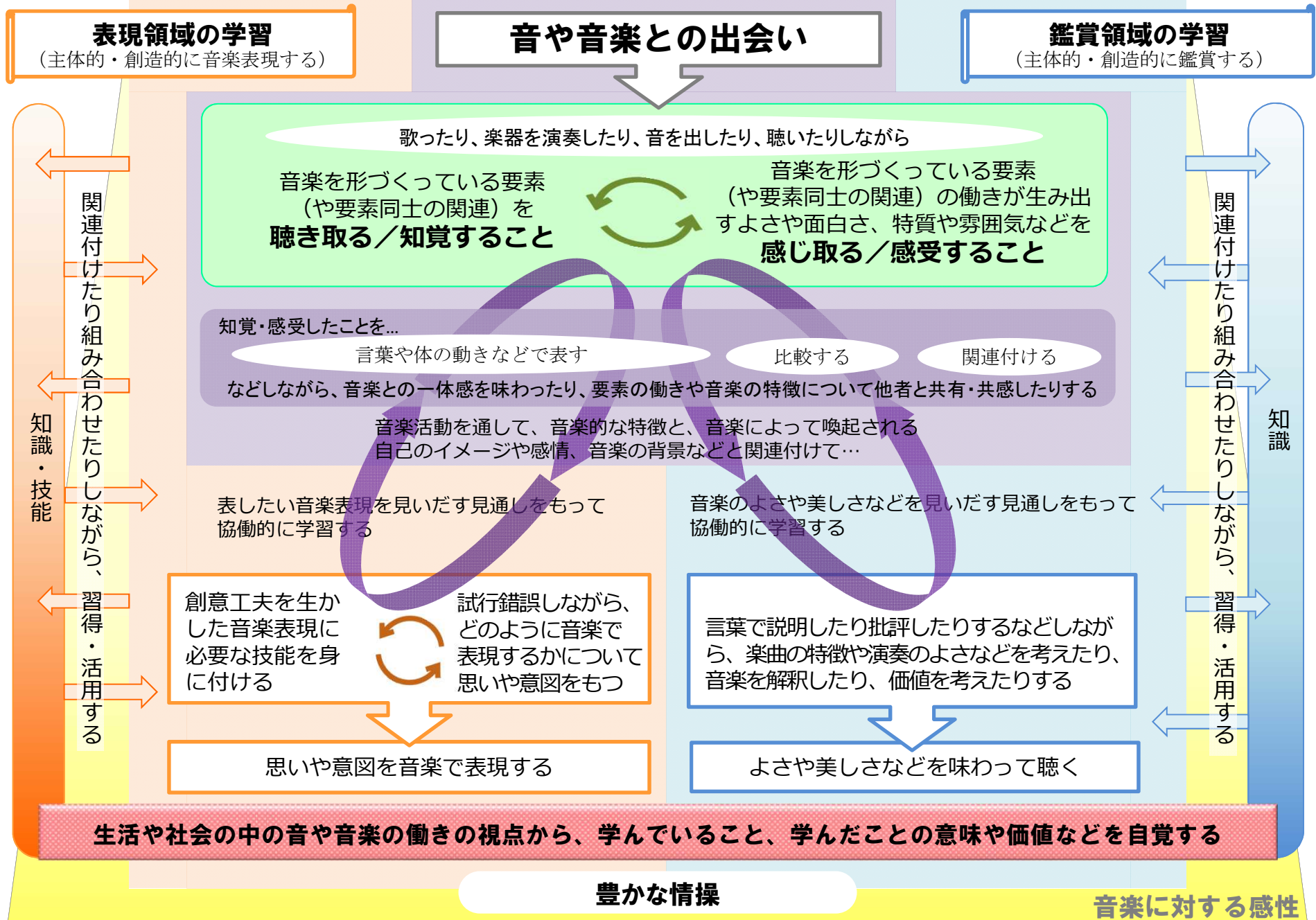
|             | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力等   | 学びに向かう力・人間性等   |
|-------------|---|--|--|
| 小学校<br>図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える<u>形や色</u>などの造形的な視点について理解すること。</li> <li>など</li> <li>感性を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて<u>材料や用具</u>を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能を身に付けること。</li> <li>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力。</li> <li>など</li> <li>感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、自分たちの作品や美術作品などについての自分の見方や感じ方を深め、味わう力。</li> <li>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対象や事象を心に感じ取る感性</li> <li>感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び</li> <li>造形的な創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li><u>形や色</u>などにより、生活を楽しく心豊かにする態度</li> <li><u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul> |

下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

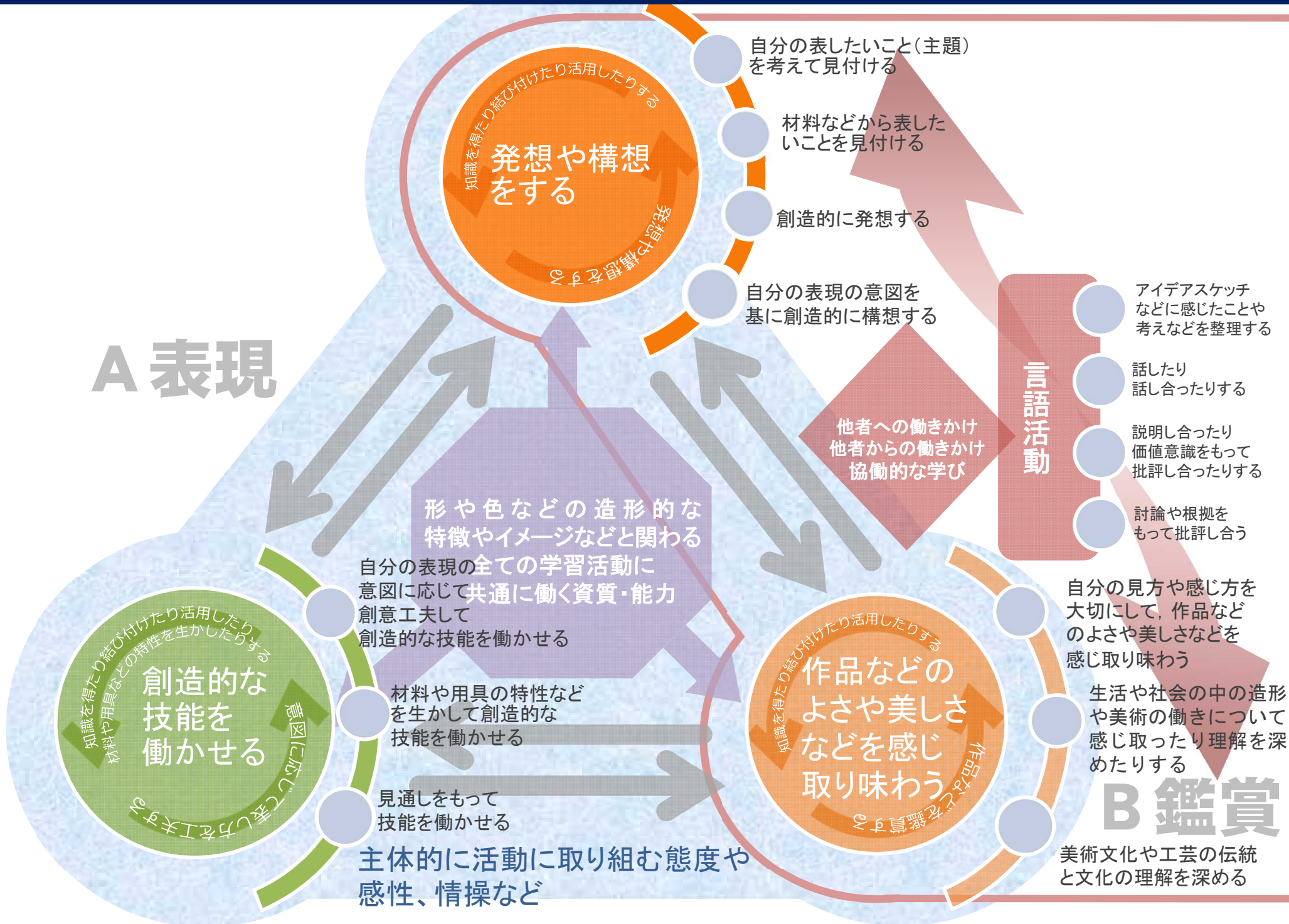
# 芸術科（書道）において育成を目指す資質・能力の整理

|                    | 知識・技能  | 思考力・判断力・表現力等  | 学びに向かう力・人間性等  |
|--------------------|--|---|---|
| 高等学校<br>芸術<br>（書道） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書を構成する要素とその表現効果の視点から、表現方法、形式、書表現の多様性などについて理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書のよさや美しさを感じ、書を構成する要素や<u>それらが相互に関連する働きの視点で捉える</u>などして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて構想し、表現を工夫すること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書のよさや美しさを感じ、書を構成する要素や<u>それらが相互に関連する働きの視点で捉え</u>、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、文字や書の伝統と文化の意味や価値を考えるなどして、書を味わって深く捉えること</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>・書の創造的活動の喜び</li> <li>・芸術としての書の創造的活動に主体的に取り組む態度</li> <li>・生涯にわたり書を愛好する心情</li> <li>・文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度</li> <li>・書の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> |

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容







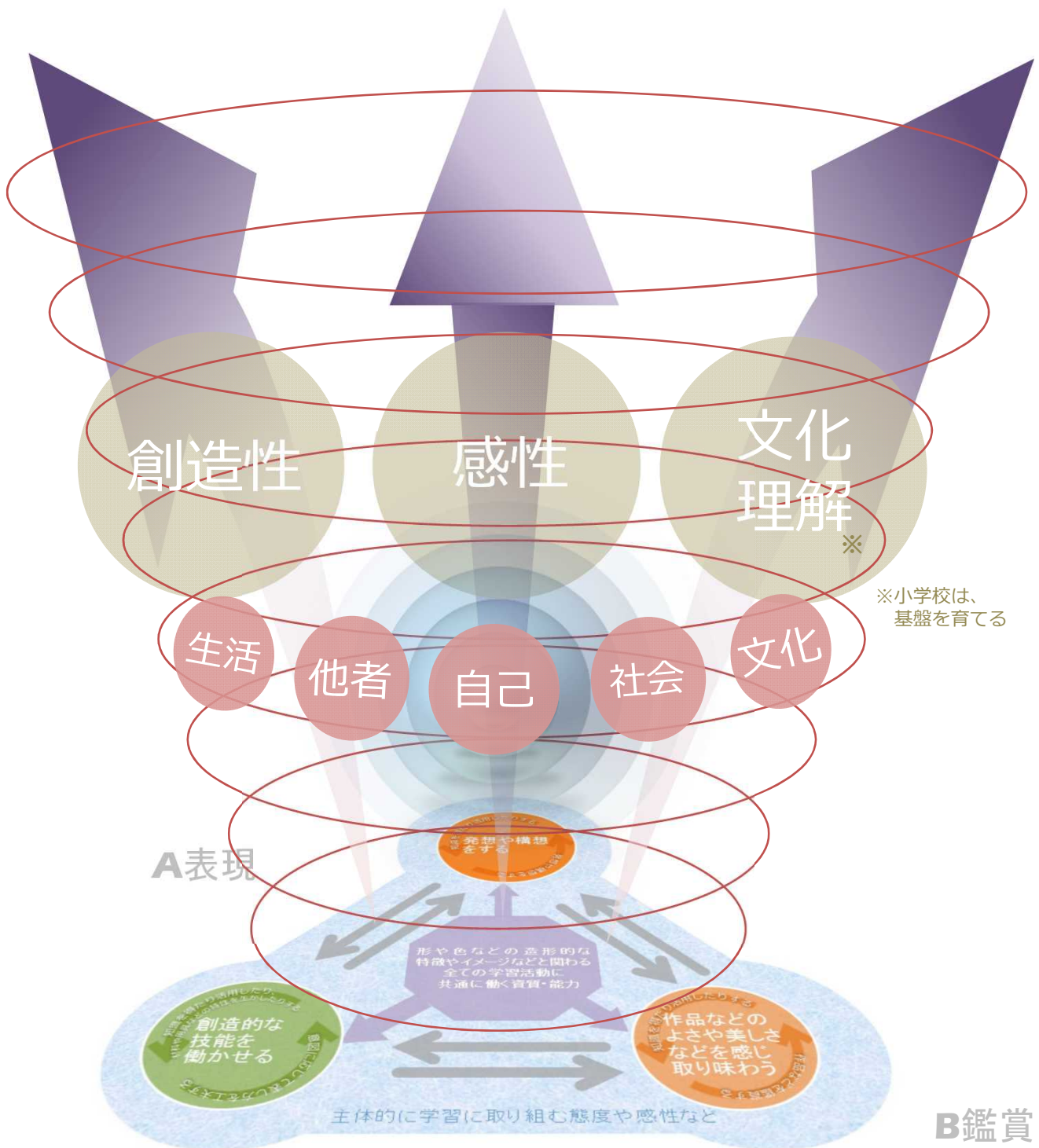
形や色、材料などを操作したり用いたりして思考・判断する

形や色、イメージなどを基に言葉を用いて思考・判断する

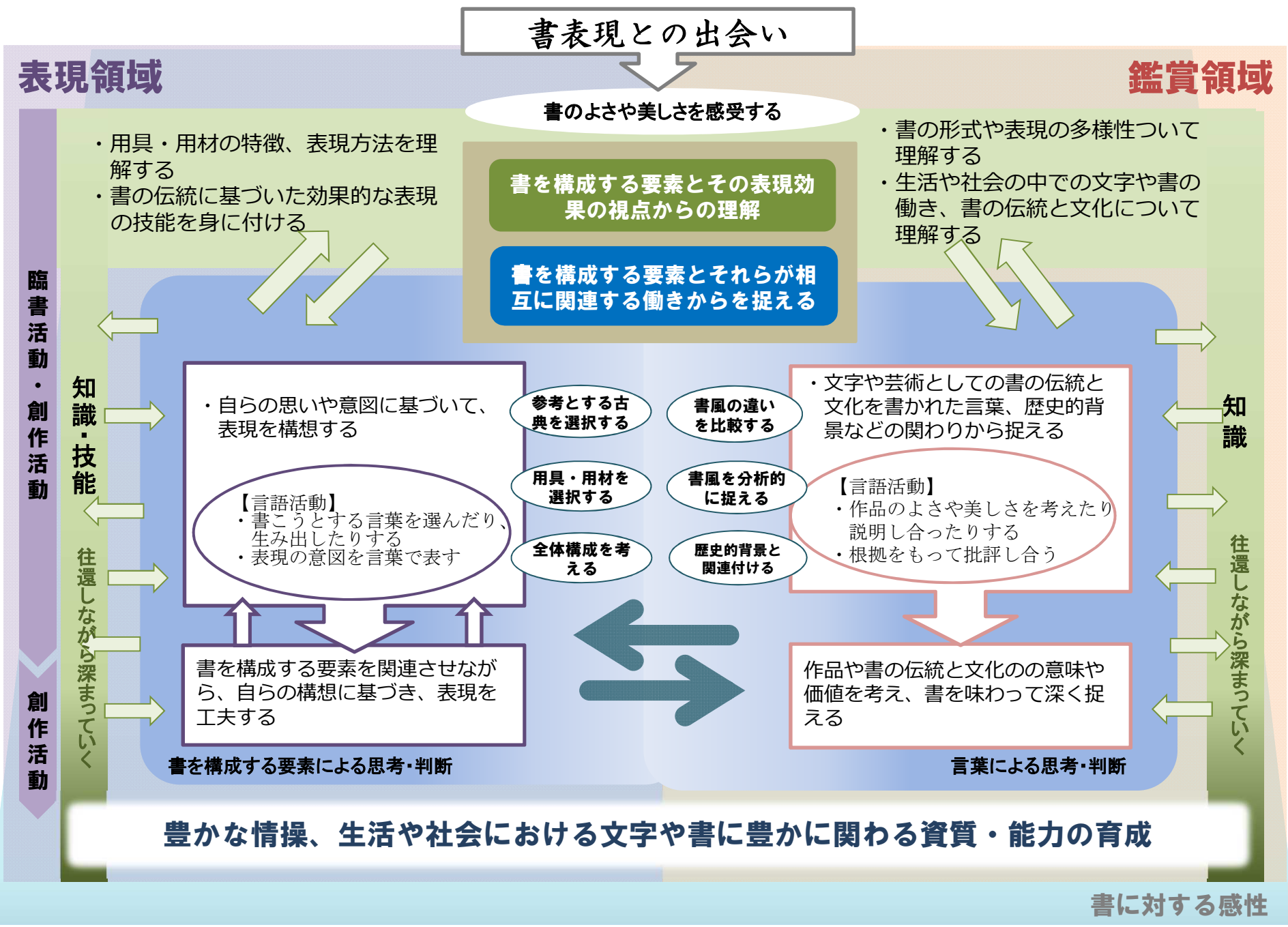
# 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における 学習過程のイメージ（その2）

形や色、イメージなどの視点をもち、  
生活や社会と豊かに関わる資質・能力の育成

## 豊かな情操







## 音楽科、芸術科（音楽Ⅰ）における評価の観点のイメージ

| <p>観点（例）</p> <p>※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討</p>         |             | <p>知識・技能</p>   | <p>思考・判断・表現</p>   | <p>主体的に学習に取り組む態度</p>   |
|--|-------------|--|---|--|
| <p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討</p> | <p>高等学校</p> | <p>（音楽Ⅰ）</p> <p>音楽的な見方・考え方を働かせて、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解するとともに、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。</p> | <p>（音楽Ⅰ）</p> <p>音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図を持ったり、楽曲や演奏を解釈したり生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いたりしている。</p> | <p>（音楽Ⅰ）</p> <p>主体的に音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に取り組もうとする。</p> |
|  | <p>中学校</p>  | <p>音楽的な見方・考え方を働かせて、曲想と音楽の構造や背景との関わり及びその多様性について、表現及び鑑賞の活動を通して理解するとともに、自分なりに音楽表現を創意工夫したり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>                 | <p>音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を自分なりに解釈したり自分や生活にとっての音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>  | <p>主体的に音楽的な見方・考え方を働かせて、音や音楽に親しみ、音楽活動の楽しさを味わいながら、協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。</p>     |



|  |     |   |  |   |
|--|-----|---|--|---|
|  | 小学校 | 音楽的な見方・考え方を働かせて、曲想と音楽の構造との関わりについて、表現及び鑑賞の活動を通して理解するとともに、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。 | 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、楽曲や演奏のよさなどを考え、音楽を味わって聴いたりしている。 | 主体的に音楽的な見方・考え方を働かせて、音や音楽に親しみ、音楽活動の楽しさを味わいながら、協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 |
|--|-----|---|--|---|

# 図画工作科、美術科、芸術科（美術Ⅰ、工芸Ⅰ）における評価の観点のイメージ

| <p>観点（例）</p> <p>※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討</p>         |             | <p>知識・技能</p>  | <p>思考・判断・表現</p>   | <p>主体的に学習に取り組む態度</p>  |
|--|-------------|---|---|---|
| <p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討</p> | <p>高等学校</p> | <p>（美術Ⅰ）</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表している。</p> | <p>（美術Ⅰ）</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えたりしている。</p>  | <p>（美術Ⅰ）</p> <p>芸術としての美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p> |
|  |             | <p>（工芸Ⅰ）</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表している。</p> | <p>（工芸Ⅰ）</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えたりしている。</p> | <p>（工芸Ⅰ）</p> <p>芸術としての工芸の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p> |
|  | <p>中学校</p>  | <p>造形的な見方・考え方を働かせて、対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</p>              | <p>造形的な見方・考え方を働かせて、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりしている。</p>                         | <p>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>                    |

|  |     |   |  |                                      |
|--|-----|---|--|--------------------------------------|
|  | 小学校 | 造形的な見方・考え方を働かせて、対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、創造的な技能を身に付けている。 | 造形的な見方・考え方を働かせて、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想するとともに、自分の見方や感じ方を深め、味わっている。 | つくりだす喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 |
|--|-----|---|--|--------------------------------------|

## 芸術科（書道Ⅰ）における評価の観点のイメージ

| <b>観点（例）</b><br>※具体的な観点の書きぶりは、<br>各教科等の特質を踏まえて検討          |             | <b>知識・技能</b>  | <b>思考・判断・表現</b>   | <b>主体的に学習に取り組む態度</b>                              |
|---|-------------|---|---|---|
| 各観点の趣旨の<br>イメージ(例)<br><br>※具体的な記述については、<br>各教科等の特質を踏まえて検討 | <b>高等学校</b> | （書道Ⅰ）<br>書に関する見方・考え方を働かせて、書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて書の創造的活動を通して理解するとともに、書の伝統に基づき、作品を工夫して表現するための技能を身に付け表している。 | （書道Ⅰ）<br>書のよさや美しさを感じ、書に関する見方・考え方を働かせて、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりしている。 | （書道Ⅰ）<br>書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 |